

「つながり」、「共感」、「創造」を柱とし、子どもたちが伸び伸びと生活できる教育活動を目指し

流山市教育委員会 教育長 田中 弘美

1 はじめに

社会全体がより複雑に変化していく中で、学校教育においても課題は多様化してきています。「予測困難な時代」に対応できる資質・能力のより一層の育成を目指すために、子どもたち自らが学習(主体的・対話的な学び)し、経験、体験を通して、自治力(課題解決能力)の育成が図られるよう具体的かつ実践的な教育環境整備を行っていきます。

また、教育環境全般にわたり、「つながり」、「共感」、「創造」を柱とした条件整備を行い、一人ひとりの子どもが心の安定を保ち、安心して生活できる学校体制づくりに努めます。

2 令和6年度 流山市学校教育指導指針

学びに向かう力、受容・共感する力を養い、創造力を育む

(1)確かな学力

令和5年度の全国学力学習状況調査においては、小中学校ともに、全国・県平均を上回っており、小中学生の学力が高水準で推移しています。しかし、自分の考えをまとめ、理由を説明する能力に課題があることから、全教科の土台となる読解力、表現力を育むためにも、一人ひとりの児童生徒が興味関心を持って授業に臨み、「自らが学ぶ」取組の授業スタイルを進めることが重要と考えます。

そして、子ども個々の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した授業実践の推進を図ります。

(2)豊かな心

将来の予測が困難な時代に、社会の創り手として自分自身のことと捉え、多様な人たちと共通の目標のためお互いを認め合う「集合知」を築き、共生社会の実現に向けた学びの教育活動の実践に取り組んでいきます。また、子どもの心の変化、困り感等の早期発見に向けた支援体制を構築し、子どもたちが抱えている辛さの軽減に努めます。

(3)健やかな体

令和5年度の全国体力・運動能力調査結果において、令和4年度との比較では、全体として横ばい、向上傾向です。感染拡大防止に努めながら、日頃から運動やスポーツをすることの大切さや楽しさを継続してきたこと。また、新型コロナウイルス感染症による行動制限が徐々に緩和され、児童生徒の運動の実施が元に戻ってきたことも要因と考えられます。しかしながら、子どもたちの基本的な生活習慣を見ると、健康的な生活には悪影響を与えることが危惧されることから、子どもたちの生活習慣の改善と良好な運動習慣の形成に努めていきます。また、地域社会の一員として、「地域の安全」に意識を向けた体験活動の実践を図ります。

(4)つながりのある教育

つながりのある教育活動の推進には、特色ある教育活動の活性化を図ることが重要と捉え、各学校における特色ある教育活動の取組を推奨していきます。さらに、コミュニティ・スクールの運用を通して、小中連携した交流活動に取組み、地域連携を推進していきます。

また、子どもの学びや教職員を支える教育環境の構築に務め、児童生徒及び教職員が主体的に考え、自身や社会に対して、責任ある行動がとれる力を育てていきます。